

たまいたま 川柳

交風賀年



雪と鴨

2021年(令和3年)
1月号 (No.734)

日川協加盟

巻頭言

初句会(しんごう)

令和三年初頭に当たり、コロナ旋風の在り様には、唯々呆然です。お迎え願う年神様もコロナ対策で困惑気味なご様子である。当方もマスク姿での閉じ籠もり普段着です。悪しからず。

ともあれ新年お日出度う御座います。初の字づくしの正月。一月催行の各種行事が花開く。しかし近年は、様様なしつらえや仕来りを近代化の波で簡略化したり取り止めたり、そして忘れられたり。けれども子ども達が楽しむお年玉だけは、疎かに出来ない経済活動である。であれば、年配の川柳人にとつての楽しみな初句会を、可能な限り早いタイミングで味わいたいものである。

その初句会では、是非とも笑いが欲しい。初笑いの味は、高級の菓子や料理やお酒にも勝って、腹の底に染み入る。抜けた抜けないの笑いではなく、お仲間との交流で得られる人間味の笑いである。今年の初句会でも、清々しい笑いが息吹くことを祈るだけである。

しかし現実には、初句会がいつの日になるかは、天と地と人とコロナの巡り合わせである。その運が得られる日は、まさに各様だろう。初句会の喜びを得る日が先延ばしになってしまったときは、これも笑って受け止めるしかあるまい。そうすれば、いずれ訪れるその日までがどの様な長さであつても、待てば海路のなんとやらを実感できらるだろう。

願法
みつる

日日是好

猪口で屠蘇茶碗で酒も春の幸
日日増える他山の石に囲まれる
人情の笑顔見えないマスク顔
深呼吸TPOに知恵が要り
門松をプラゴミにする新世界
優勝力士春へ塩撒く
雅楽ひよろひよろラップ雑音
松のとんがり老いの突っ張り
晦日の日記びっしりと嘘
春を着こなす昔なつかし